

第48号
2023年 3月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

「共にあり続ける施設を目指して」

社会福祉法人 神戸真生塾
児童養護施設 神戸真生塾 副施設長 秋本 真一



児童福祉法の一部改正案が2024年4月に施行されます。

「子育てに困難を抱える世帯が、これまでより顕在化してきている状況等を踏まえ、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化を行うことを趣旨とする」と謳われています。簡単に言えば、子どもを中心に置く社会の実現、子育て世帯に対して各家庭に必要な寄り添い型の支援を行政の責任において、より家庭の中に一歩踏み込んだ支援をしていくという感じでしょうか。

振り返りますと、私も入職して30年の節年を終えようとしています。施設を出た子供たちもいい歳の大人になっています。この原稿を書いている年の瀬は、一年のう

ちで退所児からの連絡が頻繁になる時期です。この日、自衛隊で頑張っているB君は、隊員募集の大きなポスターをお土産に顔を見せに来てくれました。「どんな子でも見るから、任せてくれたらいいよ」と自信ありげに話します。彼からその言葉が出るまでに教育を施した自衛隊は器が大きいなあ、と感心した次第です。突然の訪問だったのですが、彼にとつての施設は、気軽にいつでも訪問できる存在であったことを、私は嬉しく思います。別れ際に、ぼそっと「〇〇姉さん、元気にしているかなあ」と。お姉さんはたまたま休みでしたが、長く務めることのできる職場であることがつくづく大切だと思いました。少しして、今度は8年ほど顔を見せていなかったH君から、お母さんと兄弟の事が気になっているので連絡先を教えてください欲しい、という電話がありました。関東地方で生活していると風の噂で聞いていたH君は、退所後長い間、日陰の生活を過ごして

いました。しかし、ここ2年間は仕事に専念し、奥さんもできて、自分の生まれ育った施設と神戸の街を紹介したくなったと言います。また、その日はたまたまですが、27歳になったT君とその母、そして、彼の彼女と食事の予定がありました。「いっぱい稼いだので食事に行こう」と彼が誘ってくれたのです。結婚の予定があり、赤ちゃんができたことをその場で母に伝えると言います。寂しがり屋で泣き虫の少年だった彼、お母さんと喧嘩ばかりしていた彼。事情があつて私たちの支援は一旦途切れましたが、その後も苦労をしながら、それでも努力を続けている彼に支援を続けていました。気が付けばもう立派な大人になっていたのです。一旦は断絶した親子関係でしたが、ぶつかりながらも関係を取り戻すことができたようです。その家族に今になって関わるのができたのも、児童養護施設の「関わり続ける」という、最終を取って示す他の専門支援とは違う特殊な支援によるものだと思います。社会に出てからの人生は、良い時も悪い時もあるでしょう。むしろ、人生の日陰の一時期に付き合わせてもらえるような、そんな施設、職員集団であること

を目指し続けていきたいと思っています。社会的養育の中心は地域を大きく見据えています。それに伴い、施設には変革が求められています。社会福祉法人神戸真生塾は、時代ごとに児童福祉に求められるニーズを意識し、子どもと家族の幸せを絶えず模索し、その実現に向けて努力してきたことを自負しています。長年にわたり、様々な子どもたちと日々の営みを重ねてきたこと、その家族と向き合ってきたこと、そのソーシャルワークの蓄積は、施設内養育の更なるレベルアップだけではなく、地域の子ども家庭福祉にも有効だと考えています。神戸真生塾は、施設が備える支援を地域に活用すべく、もうすでに走り出しています。施設で出会う子どもたちや、退所していった子どもたちだけでなく、地域の中で多くの不安を抱える家族が、地域で安心した暮らしができる事を祈りつつ、これからも地域と共にあり続けていきたいと思っています。



児童養護施設 神戸真生塾

子どもが主役の 企業訪問

夏休みに、中高生の子どもたちが企業訪問に行きました。コンビニ・オリジナルTシャツ作成・パン屋・理学療法士・美容室・児童発達支援事業所・ホテル・機械工具卸業など、様々な企業様に受け入れて頂き、子どもたちが社会に触れる機会をご提供して頂きました。

この仕事に就くまでの道のり、やりがい、お給与は？と普段は話をしない経営者の方との談笑。実際に体験し、お客様への挨拶の緊張と大切さを体感。進路に悩む子どもたちには、とても有益な時間になった事だと思います。

10月には訪問させて頂いた事業



所の方をお呼びし、「企業訪問報告会」を開催いたしました。参加者は企業訪問に行った子どもだけではなく、参加出来なかった子どもにも出席してもらいました。

体験させて頂いた内容や感想を、皆の前で一人ずつ発表します。施設の中高生の仲間、職員、企業家の方を合わせると、50名ほどの人前に立ち一人で発表です。それはとても緊張する事です。子どもたち皆、しっかりと原稿を読み発表してくれました。

「お忙しい中、快く貴重な体験をさせて頂き感謝しています。」「楽しんで仕事をしないと続かないという理念の中で経営している。これからは経営理念を見て会社選びをしたい。」「自分が思っていたよりも大変で、疲れたけれど、とても楽しかったです。」「最初は不安でしたが、企業家の方が

網谷 仁志

優しく教えてくださったので緊張がほぐれました。」「仕事は何でもきついし、しんどいと知りました。その中でやりがいや、楽しいなど思える事は、自分の考えた事で売り上げが上がった時だと聞きました。僕もやりがいのある仕事に就きたいなと思いました。」と皆の前でスピーチをしました。そのスピーチを受け、企業家の方々から、一人ずつにコメントを頂戴しました。「始めは緊張が見られましたが、後半は質問も出るようになりました。すごく頑張って作業をしてくれました。」と。

他の施設に出来て神戸真生塾で出来ない事はない、と掲げての企業訪問からの報告会。子どもたちそれぞれが主役です。それぞれがやりがいを持って取り組んでいるならば、人それぞれ感じる幸せは違うから。企業家の方々の力を借りて、子どもたちの自分探しを応援したいと思います。

ボウリング大会

11月19日にROUND1三宮店にて子ども会主催のボウリング大会を実施しました。内容は年によって異なりますが、新型コロナウイルスの影響で実施できない年が続いていたため3年ぶりとなりました。実施を伝えた時は久しぶりの実施に喜ぶ姿を見せていました。子ども会は神戸真生塾に入所している幼児から小学6年生までが対象となります。参加は自由とされていますが、職員も合わせて29名での大会となりました。事前のくじ引きで決めたチームでの団体戦と個人戦となります。一緒にしたかった子とチームになれずに文句が出た子もいたようですが、気持ちを切り替えて当日を迎えるこ

とは出来ました。まずは投球練習をして各レーンの代表者1名ずつが一斉に始球式を行いスタートです。より沢山のピンを倒せるように狙って投げる子もいれば、とりあえずは届くように投げるなど様々な姿でプレイしていましたが倒れた時の結果で喜んだり、残念がったりと自分の気持ちをそれぞれの出し方で表現していました。またボウリングに慣れていない子には年上の子が教えてあげたり同じチームのメンバーがピンを沢山倒すと一緒に喜んだりする姿などみながらボウリングを楽しんでいました。大会のため上位になりましたが、子どもいれば、悔しがるといいますが、それでも「楽しかった」や「またしたい」の声が開かれたので実施出来て本当によかったと思います。また来年も実施できるとを願います。 廣瀬 加恵



退所する 1ごどもから

M・H さん

私は、乳児院から養護にうつり、合わせて18年間過ごしました。養護にきてすぐは、よく泣きわがままを言い、大変だったと聞きまし。歳を重ねるとともに真面目に育つことができ良かったです。

神戸真生塾で過ごした中で一番楽しかったのはびわこキャンプです。びわこキャンプでキャンプファイヤーの時に星空を見たり、びわこを泳いだりしたことが楽しかったです。

神戸真生塾で過ごした時間はあつという間で、もうすぐ退所という実感がわかず、不安な気持ちがあります。たくさんの職員の方にお世話になり、時にはぶつかることもありました。今となっては感謝の気持ちでいっぱいです。神戸真生塾で15年間お世話にな

り、生意気なことばかり言う私を最後まで温かく見守ってください。ありがとうございます。これからも頑張ります。応援してください。

N・T くん

僕は、いつ来たかも分からないぐらい昔からここで生活してきて、しんどいことや我慢することもいっぱいありましたが、それ以上に楽しい事がいっぱいありました。

一つ目が毎年行っていた琵琶湖キャンプです。みんなで湖を泳いんだり、部屋で夜遅くまで起きてみんなで話したりしてとても印象に残っています。近年はコロナの影響で行けなかったのも、とても残念です。

二つ目は、部屋の人などと遊ぶ時間です。ゲームを一緒にしたり、野球やサッカー、鬼ごっこもしました。たまに喧嘩もしましたが、毎日色んなことで遊んで、とても楽しかったです。昔遊んでいた友達は今もう退所してしまった人が多いですが、今でも時々思い出

すことがあります。三つ目は誕生日です。誕生日にはケーキを食べたり、プレゼントをもらったり、みんなでお祝いをしてくれます。誕生日は一年で一番の楽しみです。こんなにたくさんの思い出が出来て本当によかったです。

K・A さん

私が退所に向けて頑張ってきた事は、一人暮らしの練習をした事、高校三年生になってからバイトを始めて、自分でお金を稼ぎ社会を知ることができました。

自分で朝起きて、ご飯を作り家事をこなすことがとても大変だと言うことを実感しました。アルバイトでは働く事の大変さや私はビジネスホテルでアルバイトをしていたので、お客様の為に働いたり、お客様の大切さや、このような仕事をしている方々の気持ちを感じることができました。

そして自分で稼ぐと言う大変さを学ぶことができました。今までは施設の方からお小遣い

を頂きながら生活をしていました。自分が稼ぐことでお金の大切さを学ぶことができました。四月から社会人として働くことになりましたが、私が退所に向けて今まで頑張ってきたことを生かしながら、これからも頑張っていきたいです。

K・N さん

私の真生塾での思い出は琵琶湖キャンプです。琵琶湖キャンプでみんなとするパーベキューがとても楽しかったです。高校の三年間はコロナで中止となったことが残念です。

また、たまに連れて行ってもらった河童が出るという水源地も面白く良い思い出です。行事・イベント事では得意なことを活かして、年下の子にヘアセットやメイクをしました。綺麗になった自分を見て、喜んでくれる姿が嬉しかったです。

中学校生活では大変なことも多かったですが、部活動を頑張りました。その後、勉強にも一生懸命

取り組み高校に進学しました。テストも沢山あり大変でしたが、自分なりに工夫し乗り切ることができました。高校生活では素晴らしい友人達にも囲まれ、楽しく過ごせました。今まで色々あり、お姉ちゃん・お兄ちゃん達にも心配をかけたことがありますが卒業することができそうです。

S・A くん

将来は美容師としてお客様に喜んで頂けるよう、得意な接客も活かしながら真生塾で学んだことを大切に自分らしく頑張ります。

「この施設で暮らしてきて」私は小学一年生から小学四年生までの四年間と、高校二年生の三学期から高校三年生までの一年間と合計五年間過ごしていました。特に高校生の時に過ごした時間の方が充実していました。

高校三年生の時に就職先を決めている最中に夏休みで自活訓練をしました。一人で材料を用意して食事を摂ったり洗濯物をしたりし

ていましたが、一人暮らしが思っていた以上に大変だということを知ることができました。真生塾で出されるご飯はあたりまえではないことを再確認することができました。

そこから無事に希望していた就職先から内定をもらいました。ここで過ごした日々は、大変なこともありましたがとても楽しかったです。

A・T くん

「助けてくれた場所」

私は神戸真生塾に入所する前は、養護施設の存在を知りませんでした。勿論この事を知っている人はあまりいないと思います。そして、あまり良いイメージを持っていませんでした。しかし、私は神戸真生塾で暮らせて良かったです。

私は施設で暮らしていく中で様々な考え・価値観を得ました。それは、今でも自分の生活面や性格面でも活かされていると思います。もし神戸真生塾に入所してい

なかつたら、経験できなかったことが沢山ありました。真生塾の職員さん達は、私を支えて下さり、つらい時などに寄り添って問題解決を手伝って下さりました。まるで本当の親のような優しさを感じた時もありました。

私は施設の職員さん達に心の底から感謝しています。なので、今後何らかの形で、神戸真生塾を支援したいです。なので今困っている人は、是非頼れる大人に相談してください。

F・R くん

僕は、今年度で施設を退所します。自分で仕事を見つけ内定をもらいました。4月からは介護のデイスターとして働きま

す。施設では、迷惑をたくさんかけてきました。色んなことで支えてもらって、新しい環境にも行かせてもらえたので、今の自分がいいると思います。仕事の内定も貰って、これからはしんどいことがあると思うけど今までと同じように

周りの人に頼ってどんな事でも乗り越えたいと思いました。

施設では様々な行事がありました。僕はコロナなどで行事に関わることは少なかつたけど、納涼大会・琵琶湖キャンプ・卒園卒業お祝い会等様々な行事に関わることができてこの中で印象が強かったのは琵琶湖キャンプでした。色々あったけど振り返ればそれも1つの楽しい思い出になっています。

施設を退所してからの夢は、楽しい家庭を築いて暮らすことです。今の目の前の事、物、人を大切にして、退所してからも楽しく1日1日を送れるようにしたいと思ってきました。そして今までの教わってきたことや思い出等を忘れずにこれからも楽しく明るく暮らしていきたいと思っています。

入所している子も何かあれば大人に頼ると楽になると思うよ。今までいろんなことをやってきましたが、ここまで支えてきてくださってありがとうございます。



自立援助ホーム 子供の家

自立援助ホームの支援の在り方

私が神戸真生塾に入社をし、児童養護施設に配属されて丸7年。そして自立援助ホーム子供の家へ異動して早4年になるうとしています。自立援助ホームとは何らかの理由で家庭での生活が難しくなり働かざるを得なくなった、原則として15歳〜20歳（状況によっては22歳まで）の子どもたちが生活をしながら自立を目指す施設です。私は初め、自立援助ホームと児童養護施設の子どもたちの違いと言えば生活を見ていく子ども達の年齢層が高くなり、学校ではなく仕事に行っているだけの違いであると思っていました。しかし、自立援助ホームで子どもたちと関わり、経験年数を重ねる事で次第に支援の奥深さや柔軟性の必要性を知る事が出来ました。

子供の家では入所児童だけではなく、様々な地域の子どもたちのケース相談を受けています。その中には、自立援助ホームに入所しなくても、なんとか家で生活することができないのか、他に手立てはないのかと感じるケースが多々あります。そんな時、私達は管轄



安西 陵

乳児院 真生乳児院

納涼大会



「プリキュアのお面がいいな。」と納涼大会で貰えるお面を心待ちにしていたAちゃんは、お祭りの日まで毎日話してくれました。



例年より少し遅れましたが、まだまだ蝉も鳴く暑い9月上旬に行いました。コロナ禍以前は法人での開催でしたが、今年も乳児院のみの開催でした。浴衣に着替えて会場である2階に行きます。たくさんさんの提灯やバルーン等が飾られ、いつもと違う雰囲気子どもたちは目をキラキラさせていま

た。お店は輪投げやボウリング、ヨーヨーすくいのゲームや綿菓子やかき氷、駄菓子屋さん、お面屋さんがあり、子どもたちは気になったお店へ行き、店番をしている職員にコインを渡してお買い物をしました。初めてゲームをする子どもたちも職員の手本を真似て上手にできました。テラスで冷たいかき氷を食べてニコニコ、笑顔でおかわりする子どももいました。駄菓子屋さんでは「何でも取っていいよ。」と言われ、今までに経験した事のないわくわく、カゴ一杯にお菓子を入れる子どもやお気に入りのお菓子を一つだけ握り締めて笑顔の子どもがいま

した。



たくさん遊んで部屋に戻り、貰ったお揃いの玩具や自分で選んだ玩具で遊んだり、お面を付けて写真を撮ったりしました。まだまだお祭りは続きます。夕食は屋台のメニューの、カレーとフランクフルトとポテトです。おやつをたくさん食べたけれど、大好きなメニューでパクパク食べていました。

コロナ禍で小規模での開催になりましたが、子ども達にとって楽しい思い出ができて良かったです。



中山 麻美



ハロウィーン



10月に入り季節もすっかり秋めいてくると、子どもたちが遊んでいるところから「おばけ」の単語が聞こえるようになってきました。お部屋もたくさんハロウィーンのかわいい飾り付けで、みんなの期待感が高まります。さて、今日は待ちに待ったハロウィン当日。子どもたちはいつもと違った装いに身を包み、ワクワクソワソワ。お姫様になりきったり、黒い角や羽を生やしたりと、仮装はばっちりです。Sちゃんは台所へやって来て、「お菓子くれなきゃいたずらするぞ!」と上手に言うことができました。Aくんは両手にいっぱいのお菓子を抱えています。歩くところをばい、その度に大事そうに拾います。みんな大好きなお菓子をもらえて、嬉しさを胸もいっぱいな様子でした。



夕食はハロウィーンの飾り付けをした、たまねぎ・にんじん・ピーマン・豆腐も入った栄養たっぷりのとても大きなおばけのハンバーグです。Aちゃんは「おばちゃんバーグ」と何度も声を出して喜んでくれました。また、愛情のこもったおにぎりを見て、「おにぎり、おにぎり」と歌って喜びを表現してくれました。Hくんはかぼちゃのポタージュを気に入ってくれたようで、ハンバーグにソースのように塗り、自分だけの特別な一皿を作ってくれました。「おいしい!」と幸せそうに笑う姿を見ると、私たちも幸せな気分になります。こうした行事を通して季節感や食文化を学び、子どもたちが大人になった時にも、変わらずに幸せな食卓を築いて欲しいと切に願っています。

前田 紗希

幼保連携型認定こども園

真生きりきり保育園

子どもたちの秋の楽しみは、近隣の公園に散歩に行き、落ち葉やどんぐり拾いを楽しむことでした。幼児組の子どもたちが、乳児組の子どもと一緒に散歩に行く機会もあり、幼児組の大きなお兄さん、お姉さんは、乳児組の小さい子どもの手をしっかりと握り、小さい子どもの歩調に合わせて歩こうとします。日常の中で相手を思いやる気持ちが育っていることを感じる事ができる場面でした。

11月は3年振りに乳児保育参観を実施しました。コロナ感染予防の為、9月から延期しての実施でした。子どもたちの制作遊びやリズム遊び、園庭遊び等を見ていただきました。子どもたちは、お家の方が来られるのを楽しみにしていました。参加していただきました保護者アンケートの一部を紹介させていただきます。「とても楽しかったです。やっとクラスの友達たちの顔と名前が一致しました。子どもたちみんなが、元気で可愛くて元気をもらいました。」保育園の様子を見て安心して頂いたことを職員一同実感しました。

コロナ禍で以前のように出来ないことが増えていますが、子どもたちは希望に満ち溢れています。子どもたちの希望の光がより輝きますように願いながら、保育を進めていきたいと思えます。

橋本美記代

さくらんぼぐみ(0歳)



保育室の窓際にある桜の葉がすっかり散り、窓から初冬の空が見えるようになりました。夕方になると、窓から差し込む西日がポカポカと心地良く、子どもたちは窓際に集まって遊びを楽しんでいます。11月から1名のお子様が入園し、これで今年度入園の6名全員が揃いました。子どもたちは、お友だちや保育教諭と一緒に過ごす時間がとても心地良いようで、いつも気がつくとお部屋の一か所に全員が集合しています。0歳児クラスは高月齢のお子様と低月齢のお子様それぞれに、体の発達や生活リズム、遊びなどが大きく異なります。高月齢のお子様は、保育教諭に抱っこされてスヤスヤと眠っている低月齢のお友だちを

優しくなでてあげたり、哺乳瓶でミルクを飲んでる姿をそっとのぞきこんだりする姿が見られます。また、低月齢のお子様も、高月齢のお友だち同士がワイワイと賑やかに遊んでいる姿を見て、「たのしそうだな」とずりばいで近づいていくなど、お互いの生活や遊びの様子をよく見て、関心を持つようになっていきます。

シフォン布あそび(0歳児)



先月は、保育参観がありました。子どもたちは、いつもいないはずのお家の方が一緒にいて、少し緊張気味だったり、嬉しさが全身から溢れ出ていたり、いつもと違う表情が見られました。また、積極的にお友だちの保護者の

方に近づいていき、一緒にまごごと遊びをしたり絵本を読んでもらったりして、楽しそうに過ごさ姿もありました。

りんごぐみ(4歳児)



請川まり子

寒さが身に染みる季節となりました。「先生さむいよ」と言い、そばに来てくれる可愛らしい姿があります。子どもたちとの触れ合いを通して感じる温もりがいつもよりも愛おしく感じられる今日この頃です。そんな子どもたちですが、寒さに負けず園庭では元気いっぱい遊んでいます。今クラスの前には「どろけい」です。捕まった時には「助けてー」と仲間を助けを求め、助けてもらった時には「ありがとう」と伝える姿が見られます。警察側の子どもたちも、声を掛け合いながら追いかけています。子ども同士で声を掛け合い、警察や泥棒に分かれ、担任がいなくても話し合いができるようになってきました。もちろん困った時には助けを求めるとも

ありますが、自分たちで考えることができるようになり、成長を感じています。

運動会後からパラバルーンに興味を示す様子があり、何度かあそびました。めろん組が見せてくれた技を思い出しながら「○○できるかな?」「○○やってみたい」といろいろな技をみんな挑戦しました。難しい技があると「めろんさんに教えてもらおう」と言う姿もあります。いろいろなことに興味を持ち、学び合っています。これから寒い日が続きますが、たくさん食べて栄養を摂り、うがい・手洗い等丁寧に行う習慣を身につけられるよう「健康」について子どもたちと考えて元気に過ごしていきたいと思います。

山本菜生・村上海衣



パラバルーン

ありがとうございました

寄付並びに児童招待の芳名

敬称略・五十音順

(二〇二二年七月一日～二〇二二年十二月三十一日)

寄付金

- 安西真由美
- 伊藤千景
- 稲垣宣子
- 上杉徹
- 大社貴子
- 内井万起子
- 大江愼一
- 小笠原弥生
- 川勝浩
- 數田紀久子
- 梶田一聖
- 家庭養護促進協会
- (株)ミニッツ
- 唐川奨学金
- 倉石哲也
- 神戸教会附属 石井幼稚園
- 神戸教会附属 いずみ幼稚園
- 神戸女学院 中高部
- 神戸市立 自立援助ホーム
- 子供の家 職員一同
- 神戸真生塾 児童養護施設
- 職員有志
- 神戸聖愛教会
- 神戸ポートワイズメンズクラブ
- 後藤恭子
- 佐々木伸
- 清水美香
- 真生きらきら保育園 職員一同
- 真生乳児院 職員一同
- 住元義則、淳子
- 高森紀子
- 丹本陽
- 東崎宏紀
- 時岡三恵
- 友藤喜久子
- 中村淳子
- 難波美智子
- 西山隆雄
- 日本キリスト教会
- 日本キリスト教会 西宮中央教会
- 日本キリスト教団 神戸教会
- 日本キリスト教団 神戸多聞教会
- 日本聾話学校
- 根本志保
- 橋本美記代
- 鼻崎孝
- 濱啓子
- 濱田栄二、理恵
- 林りえ
- 廣瀬加恵
- 藤井祥子
- 藤井秀彦
- 細見英信

寄付物品

- 宮永公子
- 宮本美恵子
- 民谷清
- 森田順
- 八乙女悦範
- 有限会社 カワタリ電設
- 若林孝典
- 綿谷栄子
- 渡邊智明
- 阿波圭子
- イケメン大集合
- 伊勢敦子
- 魚平
- 内田三枝
- 大社貴子
- 尾田真紀
- 門脇明彦
- (株) アステップ
- (株) イオンファンタジー
- (株) 神戸スイーツポート
- (株) 大古會
- (株) チュチュアンナ
- (株) デイ・オー
- (株) フレーベル館
- 共進舎牧農園
- 協同食品株式会社
- 公益財団法人 日本教育公務員弘済会
- 神戸教会
- 神戸三宮ライオンズクラブ
- 神戸昇天教会
- 神戸ポートワイズメンズクラブ
- 神戸屋精肉店
- 神戸幼稚園PTAの皆様
- 小鯛竜也
- 後藤恭子
- 三宝
- 島田千里
- 神果神戸青果(株)
- 全国シャンメリー協同組合
- 谷井農園
- チルドレンストーリーヒデ
- 富川千絵
- 中筋達哉
- ニガキ株式会社
- 日仏商事株式会社
- 日本鏡餅組合
- 日本ベビーフード協議会
- P&Gジャパン合同会社
- 平野正敏
- ファイブイントラ
- ロジティクス株式会社
- ワイリップモリス
- ワイリップモリスジャパン 合同会社
- 福原商店
- 藤尾はるみ
- ふる里
- フロインドリーブ
- まほろば
- 門司一徹
- (有) ジャーマン・ホーム・ペーカー
- ヘラ・フロインドリーブ
- 吉田商店
- 吉田真弓
- ワールドメイト

いじわるなごぼうさま

「トランプの 一休さん (193) しよう」とHくん (小4) から誘われたKくん (小5) と保育者。KくんはまだTVを観ていたのでHくんが「一休さんやるでー」と言うつもりが「一休さん！」と間違えて呼んでしまいました。HくんもKくんも苦笑い。(Hくん小4・Kくん小5)

シール遊びをしていたSちゃん。「見てー」と声を掛けられ振り向くと顔中シールだらけのSちゃん。お顔がお花畑になったね。(Sちゃん4歳)

カンガルーって少食動物やねん！それは草食動物だよ。(Sくん8歳) スマホにOKグルグルって言ったら喋るねんて！(Yちゃん11歳) ○○兄ちゃんの部屋って応接室やる？本当は応接室です。(Kくん11歳)

子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時~午後6時(緊急の場合は夜間も可)
神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)
Homepage <http://www.rotary-kodomoioe.org/>
facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioe>



子育てに困ったら
先ず電話相談!

神戸真生塾子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

こころの相談を うけること

子ども家庭支援センターでは虐待・不登校・発達についての相談を中心に様々な相談を日々受けています。相談の受け方のひとつには心理的なアプローチも含まれます。もしかするとこころの相談を希望される保護者やお子さんの中には心理療法というものに大きな期待と信頼を寄せて来所する方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、心理療法とは実はとても地味なものです。行けばすぐに変わる! よくなる! といった華やかなものではなく、粘り強くコツコツとやっ

ていくことがほとんどです。こころの相談には、来所された保護者やお子さんが『助けられた』という感覚ではなく、『自分の力で乗り越えた。大変なこともあるけれど自分たちもまあ悪くはない。なんとかやっていこう。』という感覚が残るような支援者の関わりが大切だと実感します。『この人のおかげで』と思わないで去っていく、そんな関係が程良いのではないのでしょうか。どんな心理療法であれ、過度に熱をもって関わらず、かといって関心がないわけでもな

い、ゆったりとした雰囲気でありながらも良くなる可能性の兆しには目ざとい、そうした心理士の構えから良い関係性と主体的に前に進むうとする力が育まれるように思います。そんな基本の構えを今後も大切にしていきたいです。

電話で相談してくださる方や来所してくださる方からは『誰がどんな風に何をしてくれる場所だろう』という心の声を感ずることが少なくありません。子ども家庭支援センターでおこなっている支援を知る第一歩になればと思います、今回この広報誌を書きました。保護者の方やお子さんご本人・支援機関のみなさま、もし相談してみたいと思うことがあれば気負わず私たちにお声掛けしてください。

向井 有紀



神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
- 山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
- 有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
- 苦情解決責任者 上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
- 橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
- 第三者委員 岡部 正範 (当法人監事)
- 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 令和4年7月から12月未まで 2件

編集後記

今回も皆様方に広報誌「愛」をお届けできました事を嬉しく思います。

これからも職員一同、子ども達のよりよい幸せを願い、心に寄り添った支援をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回も広報誌を発刊するにあたりご協力頂きました方々、また日頃よりご支援いただいている全ての皆様にお礼申し上げます。

小林 美佳

